

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

音楽をより深く勉強したいと思ったからです。実家から通える所で自分に合う所を探していた時、オープンキャンパスに参加し、学生の方の雰囲気や設備の良さにひかれて志望校に決めました。また卒業後の進路として、音楽系の道だけでなく、一般への就職も視野に入れられる所も理由の一つです。

(2) 一般入試対策としての受験勉強、実技試験対策の進め方について。 ※音楽学科入試課題については、『2020年度音楽学科入試課題』で必ずご確認ください。

〔1学期〕

とにかく実技であるピアノのレベルが低かったため、ピアノを重点的に練習していました。元々音楽文化専攻ではなく、演奏専攻を志望していたため、演奏専攻の課題曲を決めたり、していました。この頃は主に学科や楽典、ユルユルゲン等には手をつけていませんでした。

〔夏休み〕

前述した演奏専攻のAO推薦入試に向けて練習を重ねていました。試験曲でコントロールに挑戦したり、発表の場などでしっかりと人前で弾くことに慣れようとしていました。これらは演奏・文化専攻問わず、入試本番でのメンタルの持ち方を自分なりに考えることができたのが良かったと思います。この頃から楽典を同志社女子大学の過去問で勉強し始めました。ユルユルゲンも1日1題ずつやっていました。

〔2学期～入試直前〕

AO推薦は演奏専攻として受験し、その後にはじめて音楽文化専攻の受験を考え始めました。受験を決めたのは一般入試の2ヶ月前でした。それまで文化専攻の課題曲も決めていなかったため、比較的難易度の低い曲を選び、それをきっちり完璧に弾けるように練習しました。ユルユルゲンはほぼ暗譜で全ての曲を歌えるようにしました。楽典は過去問でとにかく問題の傾向に慣れるようにしました。特に調判定は重点的にしました。学科は国語を選び、元々文章系の問題は得意だったため、それ以外の語彙や四字熟語等の暗記に力を入れました。小論文は学校の先生に何度も添削してもらいながら、書くことに慣れていきました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私は部活には入っていませんでしたが、行専がかなり忙しい学校だったので朝にピアノを練習したり、スマホ時間を使うようにしていました。スマホは受験生にはかなり使っていたと思います。もう少ししっかりケジメをつけるべきだと反省しています。健康面ではとにかくカゼインフルエンザにならぬように、手洗いやマスク、そして6時間は必ず寝るように心がけていました。学校の特性上、私の場合は周りに音楽の道を目指す人が多かったため、演奏でいきづまった時は友達にまいてもらったり不安をしゃべったりして、メンタルを保っていました。音楽はどうしても一人でこもってしまいがちになるので、友達同士で支えあうことができたのは、受験生活でのメンタルの安定に大きく役立ったと思います。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

演奏専攻として入学したから気持ちもありませんが、自分の中でやれる所までやっただけ後悔はありません。受験は思い通りにいかないこともたくさんあるとは思いますが、自分の中で「あの時こうすれば良かった」と思うことだけは無いように頑張ってください。どんな結果になってもそれまでの練習は必ず自分の力になっていると私は信じています。